

停留睾丸・停留精巢

Cryptorchidism

停留睾丸(潜在睾丸、潜伏睾丸、停留精巢、陰睾などとよばれることもあります)とは、成長期において精巣が陰嚢に収まらず、お腹のなかや足の付け根などにある状態で、片方の場合もあれば両方のこともあります。右側が左側より発生率が2倍高いとされています。

片方の場合は繁殖能力はありますが、両方とも停留睾丸が起こっている場合は繁殖能力はありません。

また、停留睾丸は精巣の腫瘍になりやすいとされています。精巣腫瘍は中年以降に発生する雄犬の病気の中で、2番目に多い腫瘍で、セルトリ細胞腫、精上皮腫(セミノーマ)、間質細胞腫が最もよく認められます。これら精巣の腫瘍は、全腫瘍発生率のうち、ほぼ1割りを占めるといわれています。

原因

ホルモン分泌の異常、鼠径官の不形成、靭帯の異常などの組み合わせにより起こると考えられていますが、この病気は遺伝しますので、現在では遺伝的要因を一番に考えたほうが良いでしょう。

症状

片方あるいは両方の睾丸が生後1~2ヶ月以上しても陰嚢内に存在しない場合、停留睾丸が疑われますが、完全な下降まで4ヶ月以上かかる場合もあるので、正式には生後6ヶ月を過ぎても陰嚢内に睾丸が存在しないことをいいます。

停留睾丸自体はこれといって全身的な症状を示すことはありません。しかしながら高齢になると腫瘍になる確率が高く、腫瘍になると様々な症状が見られます。また捻転を起こす可能性も高いとされています。

診断法

停留睾丸が起こっているかどうかは、触診あるいは視診にて確認すれば分かります。

停留睾丸を起こしている睾丸を探すためにはレントゲン検査(なかなかみつけれられないことが多い)や超音波検査などが必要になります。

治療法

去勢手術を行います。この場合、どの位置に睾丸があるかによりその難易度が変わります。片方が陰嚢にあればそちらは普通に去勢手術を行います。停留睾丸が起こっている睾丸は足の付け根やお腹の中にあることが多く、足の付け根であればさほど問題はありませんが、お腹の中だとメスの避妊手術のようにお腹を開けて睾丸を探さなければなりませんので、多少やっかいです。主治医の先生とよくご相談されて手術に臨んでください。

自宅での看護法

手術が終われば自宅での看護は、通常の手術後と同じです。栄養価の高い食餌を与え傷の回復を補助してあげると良いでしょう。

予防法

遺伝により発生しますので、停留睾丸が認められる雄犬を繁殖に用いないことが予防になります。雄犬を購入するのであれば必ず陰嚢内に精巣が2つ存在するか確認をして購入を決めると良いでしょう。また、もし停留睾丸の犬を繁殖したり、販売しているようなところでの購入はひかえるにこした事はありません。

メモ

若齢での精巣腫瘍の発生率が高くなりますので、病気の予防の為に、去勢手術をお勧めします。但し、最近の研究では早期に去勢をしようとしまいと停留睾丸の犬の寿命に差はないとの報告もありますので、主治医の先生とよく相談されるのが良いでしょう。予測寿命が10.4歳を越えるなら去勢したほうがよいというのが学術的な見解です。

ちなみに停留睾丸の犬の下降しなかった睾丸に腫瘍が発生する危険性は、正常な睾丸の発生より13.6倍高くなるという報告があります。

また、停留睾丸(片側)のイヌは、繁殖には用いてはいけません。

犬で発生率が高いのはプードル、マルチーズ、ポメラニアン、ヨークシャー・テリア、ダックスフンド、シェパード・ドッグなどです。



[広告] ▲上記QRコードで携帯から簡単アクセス可能..